

クワゴマダラヒトリ

秋と春にクワやニセアカシアなど広葉樹につく毛虫（幼虫）。最大長約50mm。体は地色が黒く、青光りするコブと茶色のコブがあり、背中に白い線が走る。黒い毛と白い毛が混じる。小さな幼虫は黄色、頭が黒い。

秋には主にクワの葉や枝上に集団で糸を張り巡らす。春には分散して様々な植物を食害する。海岸近くや市街地など開けたところでときどき多発する。



1. 老齢幼虫，体長29mm. 2001/5/26.

石狩川河口付近，ヒョウタンボク.



2. 若齢幼虫，体長7mm. 2001/9/3.

滝川，クワ.



3. 若齢幼虫の巣（2の巣）.

【学名】 *Thanatarctia imparilis*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ヒトリガ科 (Arctiidae)

【分類】 北海道，本州，四国，九州；台湾，中国.

【特徴】

幼虫はある程度成長すると体に青く光るコブが現れる。カクモンヒトリにやや似るが、頭部が黒い点で区別できる（カクモンヒトリの頭部は赤い）。

【生態】

様々な広葉樹や草本を食べ、加害樹種として150種以上が知られる。広葉樹では、クワやニセアカシアの他に、ウツギ、ウメ、ガマズミ、クリ、コナラ、サクラ、サンゴジュ、ツツジ、ブドウ、ボケ、モモ、ヤナギ、ユキヤナギなどにつく。

幼虫は秋に出現し、数十頭の集団で枝や葉に糸を張り巡らし、葉の表面をけずり取るように食べる。木の根本などで糸を膜状に張って越冬する。翌春、再び食害を行う。成長すると単独で行動する。晩春から初夏に蛹になり、夏に蛾（成虫）になる。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～	
幼虫（越冬）	+++	+++	+++	+++
幼虫（摂食・成長）		..	■■■■	■■■■	■■■■	..	
蛹				..◇	◇◇..					
成虫・卵					..○	○○..				

【被害と防除】

秋には主にクワで被害が発生する。翌春は周囲の様々な植物を加害する。これはクワの新葉展開時期が比較的遅いことと関係するように思われる。

市街地や海岸近くなど開けた場所で多発する。たいてい1年ほどで終息し、食害された木が枯れた記録はない。

秋に幼虫の巣を取り除いて駆除する。触ると体毛が皮膚に刺さることがあるので、ゴム手袋をすること。幼虫の巣は糸がびっしりと張り巡らされているので見つけやすい。クワゴマダラヒトリ用の農薬としてはDDVP乳剤（適用樹種クワ）がある。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

クワゴマダラヒトリ hitoriga/kuwagoma/kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/21.

[yochu1.JPG](#), [1yochusu.JPG](#), [1yochu.JPG](#)

「写真1～3」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.